

今回は、自然関連財務情報開示タスク
フォースのNATURE IN SCOPEの概要だよ



TCFDがベースになってるわ



NATURE IN SCOPE: A SUMMARY OF THE PROPOSED SCOPE, GOVERNANCE, WORK PLAN, COMMUNICATION AND RESOURCING PLAN FOR THE TNFD

Taskforce on Nature-related Financial Disclosures

2021/6/4

<https://tnfd.info/publications/nature-in-scope-summary-of-proposed-technical-scope-workplan-resourcing-and-communications-tnfd/>



世界経済フォーラムの推定では、世界の経済生産の半分以上、つまり44兆米ドルの経済的価値の創出は、「自然」に強く依存しているそうよ

それで、TNFDはどうするの？



自然に関連するリスクを報告し、それに基づいて行動するための枠組みを広く提供することにより、金融の変化を支援して、自然の驚異から自然資本の効果へグローバルな資金の流れに変化できるように支援していくのよ

何か原則みたいものがあるの？



そうね～、7つあるみたいよ

順番に教えて





1. 市場の利便性 :

市場リポーターやユーザー、特に企業や金融機関、さらに政策やその他の関係者にとって直接有用で価値のある枠組みを開発する



2. 科学ベース :

科学に裏付けされたアプローチに従い、確立した新しい科学的証拠を組み込み、他の既存の科学を組み込むことを目指す

科学的根拠はみんな知りたがってるよ



3. 自然関連リスク :

自然への依存と影響、及び関連する組織的・社会的リスクだけでなく、差し迫った重大な経済的リスクを含む自然関連リスクに対処する



4. 目的主導型 :

TNFD目標の達成を確実にするために最低限必要なレベルの構成単位を使用することにより、リスクの軽減と自然に対し積極的な関わりを増やしていくことを行動目標とする

自然への関与を積極的に進めていくのは良いよね



5. 統合・適応 :

既存の開示・基準に統合して強化できる効果的な測定とレポートの枠組みを構築する。国内および国際的な政策コミットメント、基準、市場の状況の変化を説明し、適応する



6. 気候-自然関連 :

気候と自然に関連するリスクへの統合アプローチを採用し、自然に基づく解決策の資金を拡大する



7. グローバルに包括的 :

枠組みとアプローチが、新興市場と先進市場を含む世界中で、関連性があり、公正で、価値があり、アクセス可能で、手頃な価格であることを確認する



TNFDスコープは生きている自然の要素に焦点を当てているね



具体的にTNFDスコープの提案内容は？



まず、TNFDの枠組みは、組織の運営方法を中心に構成された4本柱のアプローチを採用しているわ

①ガバナンス ②戦略 ③リスク管理 ④指標・目標



これは、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の枠組みで使用されているものと同じ構造よ



だけど、性質の測定、より広範なポリシーと市場の動向、リスクの体系的な性質の特定の課題を認識して、TNFDは「自然に関連するリスクと機会」という用語のより広い定義を4本柱に組み込んでいるわ

「リスクと機会」ってTCFDの提言にあったよね





短期的な経済的リスクに加えて、その影響と自然への依存によって表される長期的なリスクが含まれるわ

つまりどういうこと？



組織は、自然が組織の当面の財務実績にどのように影響するか（「アウトサイドイン」）だけでなく、組織がどのように自然に影響を与えるか（「裏返し」）も開示する必要があるのよ



リスクへのアプローチは、例えばシナリオの使用を通じて移行リスクを検討するために、当面のリスクを超えて拡張する財務要因に対するTCFDのアプローチと一致しているわ



さらに、環境リスクと機会をどのように管理すべきかについて、金融機関と規制当局の間で新たな議論を進めて、実践の方向性を反映しているわ



各組織のガバナンス、戦略、リスク管理、指標・目標は、自然への影響（「裏返し」）に関連するリスクを含む、組織へのリスク（「裏返し」）を軽減するように設計する必要があるわ

4本柱と自然リスクの軽減がキーワードなんだね



この双方向のアプローチは、体系的な自然関連のリスクを確実に特定・評価・管理を行い、次に、個々の組織に長期的なリスクの見積もりを通知するために必要なのよ



TNFDは、「2030年までに純損失なし、2050年までに純利益」というCBDのゼロドラフトグローバル生物多様性の枠組みにある2つの目標の達成を目指すようね

じゃあ、4本柱と自然リスクの定義を教えてよ





①ガバナンス：
影響、依存関係、リスク、機会に関する組織の統治



②戦略：
組織が自然に与える影響と依存関係、関連するリスクと機会がビジネス、戦略、財務計画に及ぼす実際の影響と潜在的な影響



③リスク管理：
組織が自然から受ける影響と依存関係、関連するリスクと機会を特定・評価・管理するプロセス



④指標・目標：
自然が関わるリスクと機会への影響と依存関係を評価・管理するために使われる指標・目標

4本柱に共通するリスクと機会は、TCFDのキーワードだったよね～





そうね～この4本柱と横断的に関わるのが「自然関連リスク」なのよ。このリスクは、組織が自然との影響・依存・結果を通じて生まれる経済的リスクと機会を考慮する必要があるわ



「自然に関連するリスクと機会」という用語は、組織の自然への影響、自然への依存、そしてこれらの影響と依存から生じる財務上のリスクと機会が含まれるのよ

「影響」と「依存関係」の意味を教えて



Science Based Target Network (SBTN) が定義する「影響」と同じよ。大気、水、土壌の汚染を含む、自然状態に対する企業またはその他の関係者のプラスまたはマイナスの効果。ヒト・ヒト以外の生態系・生息地の断片化または破壊。生態系体制の変化

「依存関係」は？





これもSBTNが定義する依存関係と同じよ。
水流や水質規制など、個人または組織が機能するために依存している人々[生態系サービス]へ自然が関わる場面。
火災・洪水等の危険の規制。受粉。炭素隔離



ある事業または部門が自然に与える影響は、他の事業または部門が自然に依存することにより、重大な経済的リスクを生み出す可能性があるわ。
これらのリスクは、事実上すべての市場参加者と社会の部門に影響を与える可能性があるのよ

経済的リスクからビジネスチャンスは生まれないの？



その前に、もう少し経済的リスクを説明するわね

は〜い





規制、市場アクセス等による自然への悪影響に起因する経済的損失、組織が依存する特定の種、遺伝的多様性、主要な生態系サービスの喪失に起因する費用が経済的リスクに含まれるけど、これらに限定されないわ



影響と依存関係の完全な分析は、自然へのプラスの影響や組織が依存する自然の強化から生じる潜在的な経済的利益等の機会(チャンス)も提示する可能性があるのよ。
そして自然関連の金融リスクの明確な定義を早期に検討しないとね。それは 2つのカテゴリに分類できるのよ



そのとおりね

もしかして「物理的」と「移行」かな？



TCFDの復習だね





自然に関連する物理的リスクと機会：自然の喪失に起因する物理的リスクは、自然の生態系が機能する方法、または機能を停止する方法のイベント駆動型(急性)と長期的変化(慢性)に分類できるわ



物理的リスクは、資産への直接的な損害、生産プロセスまたは従業員の幸福に不可欠な地域の生態系サービスの喪失、供給網の混乱による間接的な影響など、組織に経済的影響を与える可能性があるわ



これらのリスクは、人間の幸福に不可欠なグローバルな生態系サービスの喪失等、他の当事者に財政的・非財政的な影響を与える可能性もあるのよ。
例えば、昆虫による受粉の減少による農業部門の地方・地域の経済的損失、医薬品の世界的な経済的損失が含まれるわ

リスクが多いね～「機会」は？





そうね～、物理的機会は、ビジネスの生産プロセスや需要の回復力の向上など、組織に経済的な影響を与える可能性かしら

次は「移行」だね



自然に関連する移行のリスクと機会：自然に前向きな経済への移行には、広範な政策・法律・技術・市場の変化が伴う可能性があるわ



評判・法令順守・責任または訴訟リスクを含む、性質に関するものや、移行によって座礁資産なることもあるかも

怖いね～

「リスク」はもういいから「機会」を言ってよ





自然に与えるプラスの影響に報いる市場の選好や需要の変化によって、企業が経済的利益を得る場合には、移行機会が発生する可能性があるわね



これらの枠組みの目標は、行う必要のある変更を定義して、移行リスクの推進要因を定義するわ



つまり、自然への影響は、たとえ今日、経済的に重要でなくても、将来的に重大な経済的リスクを生み出す可能性があることに気づいておいてね

物理的・移行のリスク・機会の復習が終わったよ



次はいよいよビジネスとの関連の特定かな



そうね



組織は、科学的に固定されたアプローチに従って、どの影響、依存関係、財務リスク、機会がビジネス慣行や財務活動に関連しているかを特定する必要があるわ



例えば、自然の科学に基づく目標設定に関するSBTNの企業向けの初期ガイダンスや、企業の生物多様性パフォーマンスの計画と監視に関するIUCNの最近公開されたガイドラインがあるわ

そういえばシステムミックリスクってなあに？



良く知ってるわね～自然関連のシステムミックリスクは、組織自体への経済的リスクに加えて、経済全体への影響と依存関係が自然関連のシステムミックリスクを生み出す可能性があると言われてているの



システミックリスクは、3つね



- (1) 重要な自然システムが適切に機能しなくなるリスク
- (2) 金融機関の(組織または取引レベルではなく)ポートフォリオレベルで発生するリスク
- (3) システム全体の財政的安定に対するリスク

(1)と(2)は自然関連リスクの評価の範囲内で考慮するのは分かるけど、(3)は経済全体、すべての業界に同時に重大な影響を与えるからちょっと別枠で考えないとね～



そうね～



それじゃあ、次はTNFDの作業計画をみてみましょう



TNFD作業計画は、構築・テスト・コンサル・普及・市場への取り込みという5つのフェーズで構成されているのよ



フェーズ0(ゼロ)は準備フェーズで、非公式作業部会のガイダンス、TNFDの立ち上げ、準備調査、TNFDの枠組みを成功に導くためのパイロットが含まれているわ

それぞれのフェーズを教えてよ



まずは、フェーズ0：準備



このTNFDの立ち上げには、15～20の金融機関の市場準備調査、既存のツールのリソースマッピング調査、ITEGが提案する段階的優先部門アプローチの開始が含まれるわ



TNFDの準備は2020年9月に始まったわ
フェーズ0は、3つの要素で構成されるのよ



TNFDに関する75の強力な非公式ワーキンググループの推奨事項、
2021年後半のTNFDの立ち上げ、および概念実証パイロットと、
実際の考慮事項を一緒に評価する市場準備調査を構成する深い
研究と経験



また、枠組みの構築段階で、民間および公共部門全体にわたる
自然関連のリスクと依存関係に関する決定を通知するための指
標・データ・リスク管理・ストレステスト・ツール・主要な実
習の現在の状態

フェーズ1は構築だね



そうね



ドラフトの枠組みの構築では、TNFDの目的・出力・結果を改善し、ドラフトの枠組みと推奨事項を作成する。
技術的な作業には、データスタック、シナリオ、気候と自然の関係に関する作業が含まれるわ



TNFDメンバーは、データ中心の部門別の段階的アプローチを行って実用的な枠組みを作成し、実用的でアクセス可能であり、すべての地域の最先端の研究と技術革新に基づいて構築されるわ。
枠組みは、TNFDの原則と範囲に完全に一致して、市場準備調査と概念実証パイロットに基づいて構築する必要があるのよ

TNFDの枠組み要素の概要を教えてください



5つの要素で構成されているわ
①提案された部門 ②データ・指標 ③報告基準
④シナリオ ⑤層(基本・仲介者・包括的)



- ①高い影響力と高い依存性に基づく優先部門
- ②TNFDは、データプロバイダー、プラットフォーム、ダウンストリームデータサービスプロバイダーと連携して、その枠組みを満たすために必要なデータ基盤整備の開発を促すわ



- ③影響、依存関係、機会に関する既存の報告基準の比較
- ④適切な目標、経路、モデル、データに基づいて、業界ごとに前向きな自然シナリオを評価

⑤は省略だね



フェーズ2はテストか〜



そうね〜
テストプロセス中に、TNFDの枠組みの草案は、関連する金融規制当局と緊密に協力して、金融機関や企業とテストされるわ



ドラフトTNFDの枠組みは、パイロットに応じて改訂されるわ

フェーズ3はコンサルだよ



ドラフトの枠組みの立ち上げでは、ドラフトの枠組み報告は、関連する部門や地域での普及を促進するための相談対応を求められ、TNFD Webサイトに掲載されるわ

次はフェーズ4の普及だね



TNFDの完全な立ち上げと促進について、プロジェクト全体の内部・外部の通知計画が、いつどのように伝達され、TNFDの立ち上げの推奨事項が支援されるかという進捗状況を決めるのよ

もう具体的なスケジュール案はあるの？





世界的な普及と最初の取り込みのために
2023年の後半に始める予定よ

最後フェーズ5は市場への取り込みは？



クライアントに焦点を合わせ、その中心にある「実践学習」により、
TNFDは、リスク管理、シナリオ分析などに関する次世代の詳細なガイダンスを提供し続け、市場が枠組みを行動に移せるように支援するのよ

ようやく終わったね



最後にちょっと

なに？





金融機関を含む環境リスクと機会に関する議論において、組織の環境への影響をどのように組み込むかについて多くの議論があったわ

はい



また、「人への自然の貢献」については、「人の生活の質に対する、生きている自然(生物、生態系、それらに関連する生態学的・進化的プロセスの多様性)の正と負の両方のすべての貢献」と定義しているわ

はい



自然からの有益な貢献には、食糧供給、水の浄化、洪水調節、芸術的インスピレーション等が含まれ、有害な貢献には、人々やその資産に損害を与える病気の伝染や捕食が含まれるのよ

「人への自然の貢献」って、メリットとデメリットが共存するってことでしょ



そうよ

わかりました～



自然資本の経済価値の検討は始まったばかりだね～



おしまい

